



靴  
10  
七

9  
3585  
7



門 1 第  
號 355  
卷 7

天見遠子大張子  
侍守并書紙指袋  
疋小袖之疋  
鏡云床飾  
池子提瓶子  
子掛并齒堅  
又首勺懸子  
結方并打形  
貝合貝桶  
分貝并繪貝  
字札  
指香之串

小言

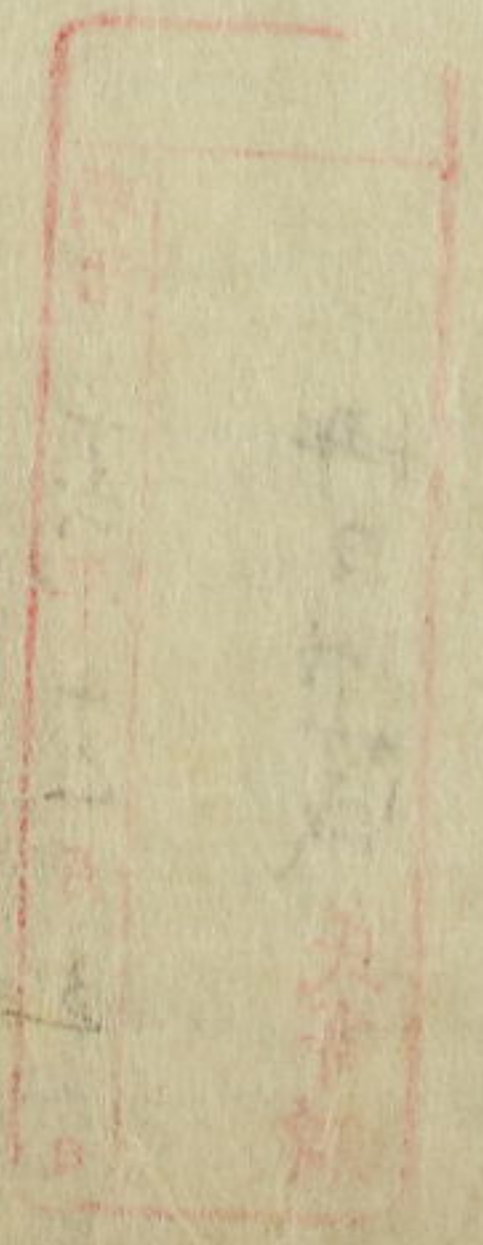
類形之帖

明治二十六年十一月五日  
坪内雄藏氏寄贈

門 口 9  
號 3585  
卷 7



Faint, illegible handwritten text in the upper portion of the right page.



襷形の帖

天兒

世にわまのりを用ふる事成りふ天祖のいうへより男  
乃災難を除く抜の法ありし今にむすく用  
更なり其くこれゆりや災くわらふより麻作の  
抜茅の系れくくといふやあり 愚業兼好が六  
月抜といふ是より麻乃系茅の系とりて串くめて  
かき川にさらしけり六月抜といふ六月盡日  
前にて抜川は照月なみとありけりくみかきくく  
後には皆月くくはなりは傳あり  
今の代形代といふも後なり 五葉源氏字法十帖の  
内に優は寒の始中れ末の口いりやとありの末と

君のこゝろはと兼中純玄の語ひおもしろく終りも是  
より源氏物語はより代とハカシてはよむべきか  
後といふ皆合れんごまの人ごにほくらなり男れ代  
といふこれ其人の名なるもさう小神は羅刹鬼羅刹  
あせつたけ其人の名ともうたけながすゆわき  
茅ぐわ芦の人ごさなごのよまなり皆天児はそごひ  
にいと其こりハ一なりこまじと按物もまごに  
しれとさうなごくりのおせんごごもよりけし  
まけらるへとごごくろなごもよりなり後之具と  
りらく男はごごく飛脚鬼羅刹とごごくおごすつ  
なり堀河院の時後頼朝にさごのいごに  
はまごなるあさちとりのいごしてまご一男も

なごもよりまごにいづきとまごくろのかごは  
いごたり又後まごくとより延喜式に是と菊  
いづりいごご孔子のい言に備と地ごりり  
らんといごまご細註に菊と東とごごまご  
は又まご不音の字まごや孔子のこまご備と  
の天児の養理子細書泥のかりりごご  
式は菊靈の天児のりりまごト同トかより  
けりまごごまご那ひあやまごごりやまご  
よ、書函のりりりり書札は按物形代は天  
凶変の按物形代は菊の二まごごりり可  
天児といふいごれはまご書札のり  
天児は今れをいりりりり 且兼源氏物語も天児

三歳まで力に添くといふ松尾の事  
の形も後よめ女侍とすえーが三つたりの  
は糸の毛乃まぬ女にあり給ふとれ天兒  
きくちのまじりたり候侍男子  
な一太内津川水は後より  
道徳の侍なりなり  
ぐさの事なりとぞ

一 天兒下地の侍なりなり  
侍なり

一 天兒と寿月のまふど  
細は侍あり  
己なりなり

右 天兒と寿月のまふど  
細は侍あり  
己なりなり

色一

一 侍著様 久世

髪並の次身

男子元服

親云

女 天兒 三つ目の腰振 妻娘の天兒一所にして

世寝の間にし 天糸男子女子日取のうり

右ハスツの枝地 今ハ五の甚 天糸津樂湯の乾

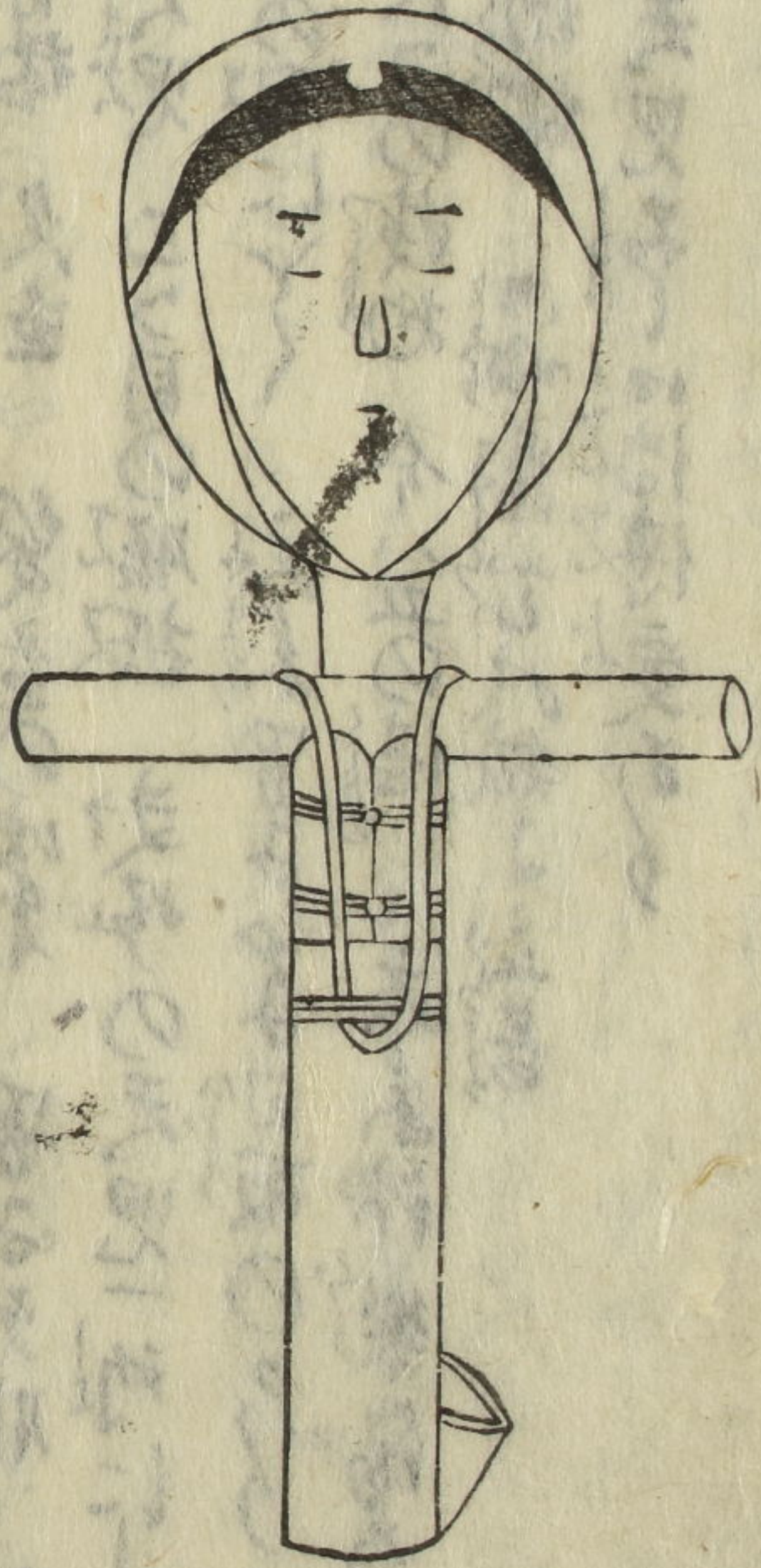
内の幼徳 天糸津樂湯の乾

右天兒は侍傳受あり

天糸津樂湯

天児の髷

制衣作口傳



天見較年といさの法立かといひもろくそ一は傳  
天児白小神女紐 痔毒 松竹 意匠つく 金銀唐  
のり口傳

御加這子

一沖加這子ハ目出度旧老の方より進すべ一は傳

天児と略は 輿乃先糸とをりあり 小袖ハ天児  
同お口傳

沖加這子丸圖

あんにーさぬなり口傳



大くりこのう  
一宿直の大一對男は左向を第一に羽津勢と入る右向は  
祝賀と入る女は右化仕の具は入世に類よ父大とす  
これより起り宿直れ大か、此まのうに伊多一

宿直大之島

宿直大之島  
大とす  
一宿直の大



つげのおとくさうせーかひ七束の  
 川出おろるべー



一 初太ともしらゆらねを定はりこそ夏日本武麻呂  
 におおははるもはるらと法とみはあはは

無法のお

おひぐぬの人いさくならぬのひまふたのうとあつめ  
 いかまこははわり

筒寺の本

一 筒寺嬰兒と糸此興のにんより緒とけいじとびりて  
 けつなり常れ地約も同しゆなり子早州常とと  
 とけい活まり恒拂まると一軒歌てめは半あり

一 金物爲無衣和家の紋假彫派の巻丸は麻呂右に宿  
 巻に侍

筒後之巻

寸法は侍





内脇指袋の圖

制衣作は信



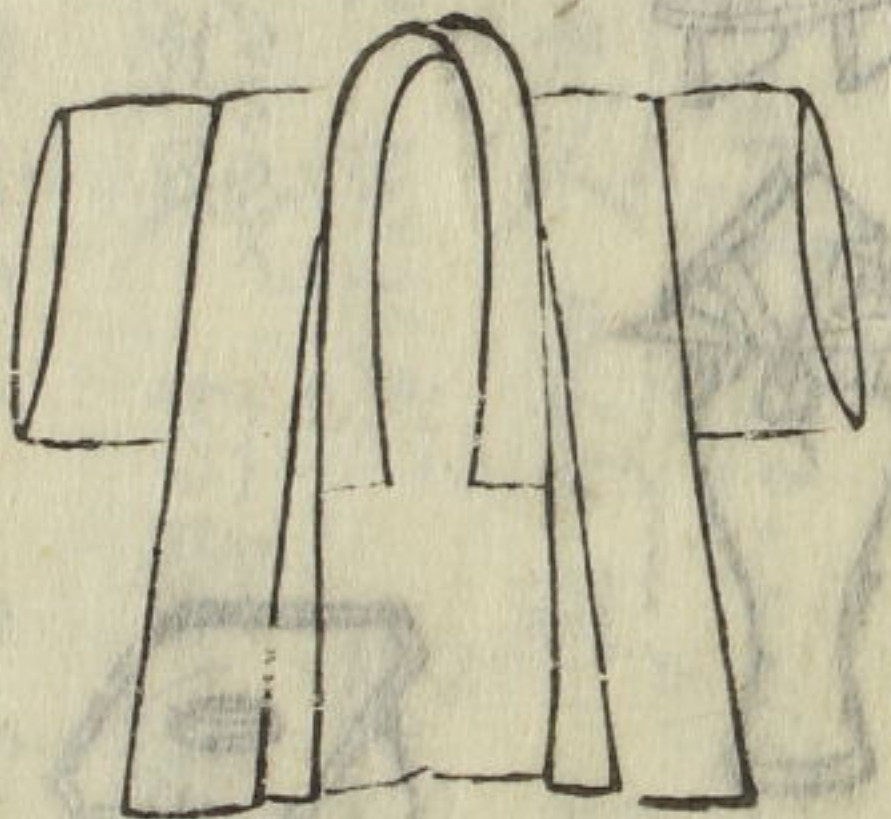
大人の奥方妊ありて纏帯とけりそち糸目より七里以茶  
切りとひくちかによろとよりすけり口信

疳取小袖の事

一 疳取小袖又物着てか新敷沙衣と入娘七歳まで天兒よま  
せそのら嬰兒着るとよりすあり  
かにとり小袖做すれ中衣と練着標に深小紋とつけ表と裏と  
嬰兒よめとすは信

一 かふとり小袖裁り練衣の幅何と信

疳取小袖の事



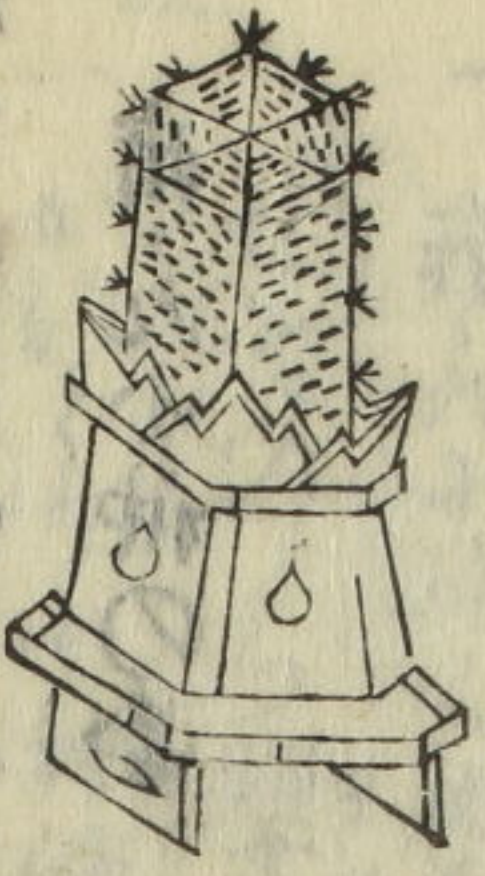
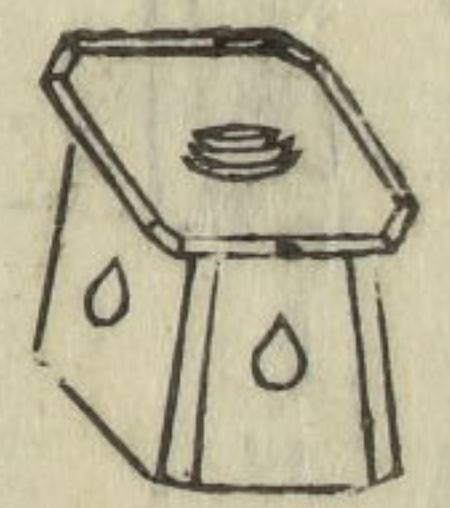
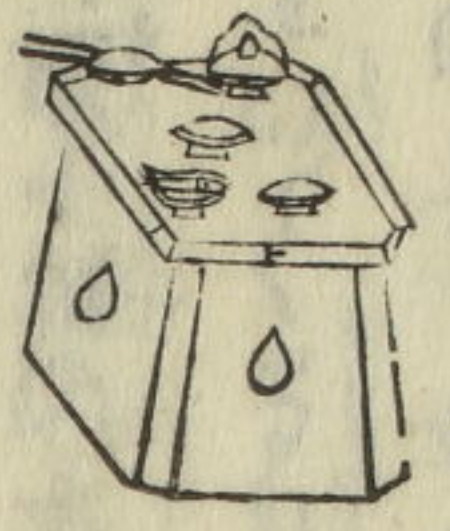
疳取小袖 積雪子 塙通 連銭州 地沙州 各信

一 疳取へ出地のりあり

一 他家よ蟹と着と小紋よ疳取りもあり何と信

祝言床勝之旨大具

飾り付



一 饗膳こくに記すハ祝言の時より書ハ食膳ハ又異なり

一 蓬萊と祝言の蓬萊丸のほらい整りなり

一 蓬萊丸の臺例漬の二名は侍との介松よりなり

一 七賢の玉歳王母 寿老人 東方朔 祝言 祝言坊 三天 浦島

岩に鶴鶴 松は雛鳥 岩に竹 烏龜 梅の巻 椿の巻 別

臺 鯛の巻 里更竹界 苦骨 梅の巻 椿の巻 別

の物 茨の巻は侍は侍ハ十二の臺とすなり

一 紗耐焼の臺在交の同敷により飾り不勝ありは侍

一 祝言一巻ハ奉繁多にしく紙紙とびびかき毎奉に

書しなりかき祝言云に筆一書はあつともは侍は実を

さしめられはるる毎にすくふは侍

一 祝言子具棚こくに記すべされども中たり板のまは侍

女髪しんがみごと ひとごと ひとあがご 女ふえ 身の内みうちも  
女洞てうどうは紀 女訓にんくん家け業ごうさごまに大畧りやうさうけくははし  
富とみ屋やよさうとらうりさー飾かざりアハささまりてけさうさうすは  
まさりのさう放はなは略りやくは但たー祝いわい云いの月つきそのまかざりゆめ  
ハハレと無なべーハ信しん

一 右みぎ上うへ記き天あま兒こ這こ子こ大おほ張ちやう子し身み袋ふくろ疝しん疝しん小せう神かみ丸まるよーすす正  
月つきより入いれるる三さん筆ひつのきごひ八はち寸すん法ぽう巨こ細ここをを使しなれはさ  
らずなあさうさくたは法ぽうはよさくもんはやくやくあ  
りくもんややくあやくー興きやう終しゆうよ名なはごたにさうすちら  
げきくひんひんととた大おほなる蓋かきうりやくこゆらなるめ  
あーりなるうかざりうーづさささらすは  
あーゆる色いろの厨く子し玉たま店てん祝いわい云い一ひと毛もう乃のどれかゆとひよ

丸まる雲うんにあるあると寸すん法ぽう巨こ細こハハくくとれ其そのあー申まをハハくくとれ  
とてもちうがくがくとんごーと上じやう法ぽう草そう畧りやく法ぽうとてお  
ーじつーととおまごおほくくひつーくワわ色いろの厨く子し玉たま柳りゆう  
ととみづささにハハくく代たくよハハくくあつとハハく  
うりて十じゆ五ご二十にじゆ五ごにああるる糸いとをを中ちゆうくく糸いともけくくハハく  
け二に五ごハハくくゆるゆるハハくく有あ威いののハハくくとハハくくハハくく  
ハハくくハハくくハハくくハハくくハハくくハハくくハハくくハハくく

一 池いけ子こ提てい并へい 籠かご子こののも  
一 男おとこ蝶ちょう女によう蝶ちょうハハくく籠かご子こにハハくくハハくくハハくくハハくく  
一 一ひと羽うの羽う常じやうにハハくくハハくくハハくくハハくく  
一 一ひと羽うの羽う常じやうにハハくくハハくくハハくくハハくく



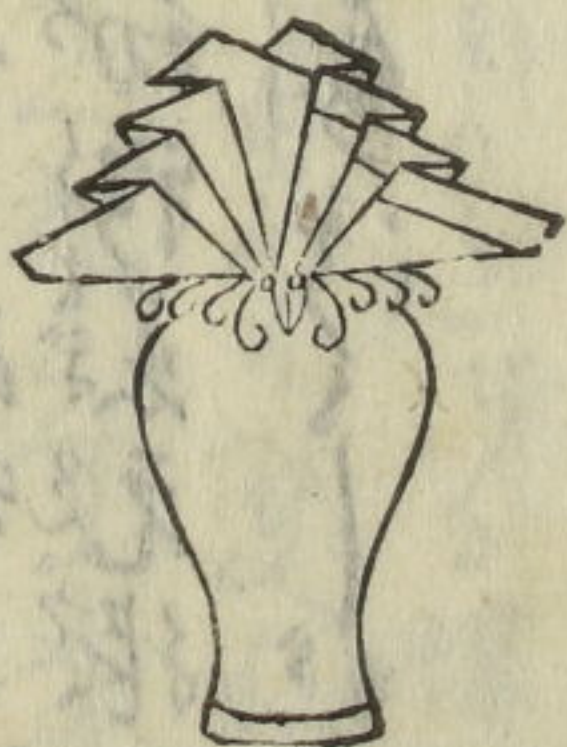
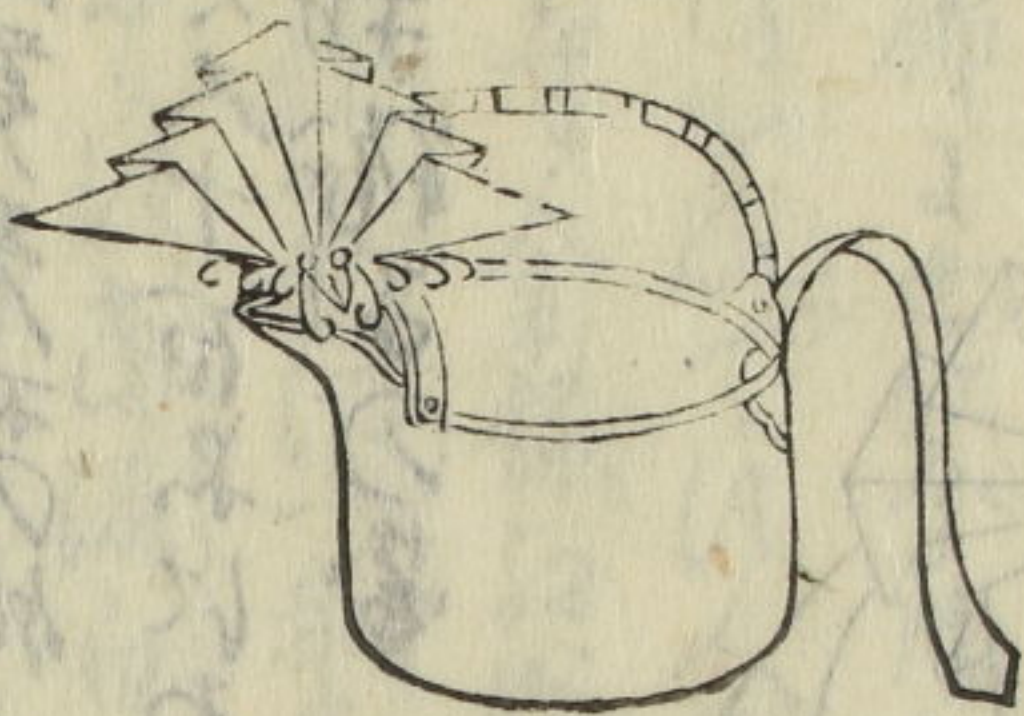
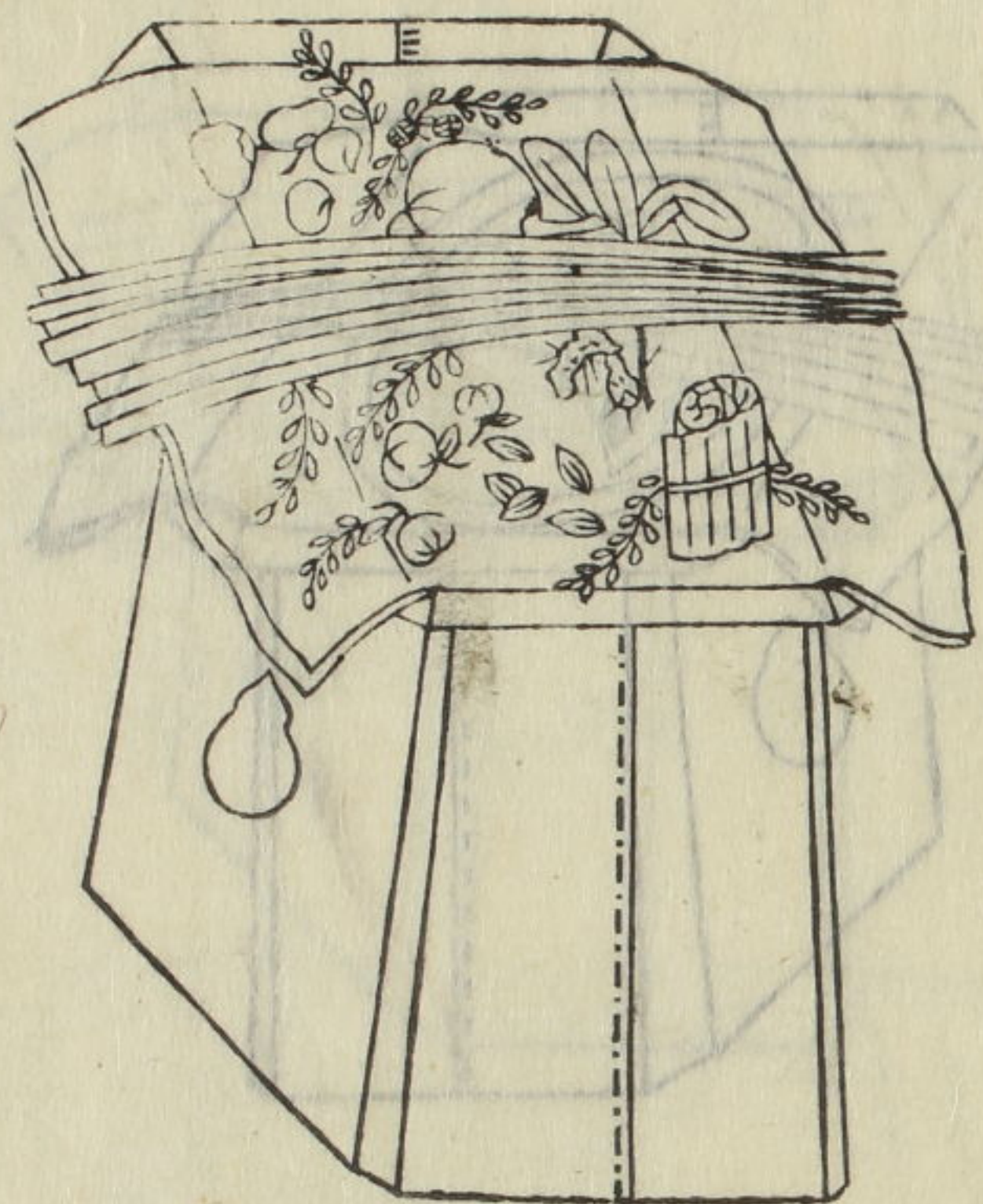
五節の次

正月

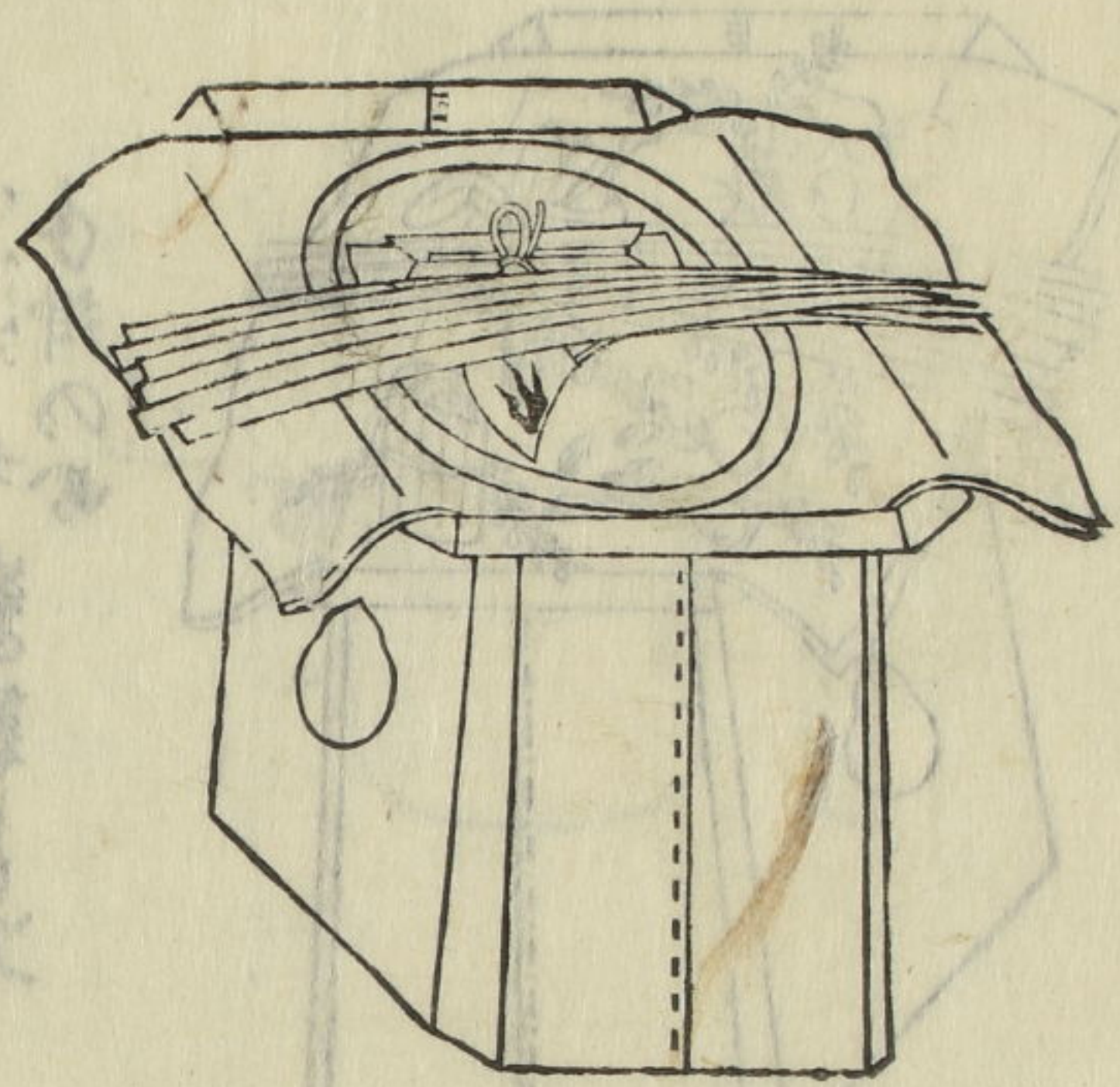
お掛の男

菫葉とよ

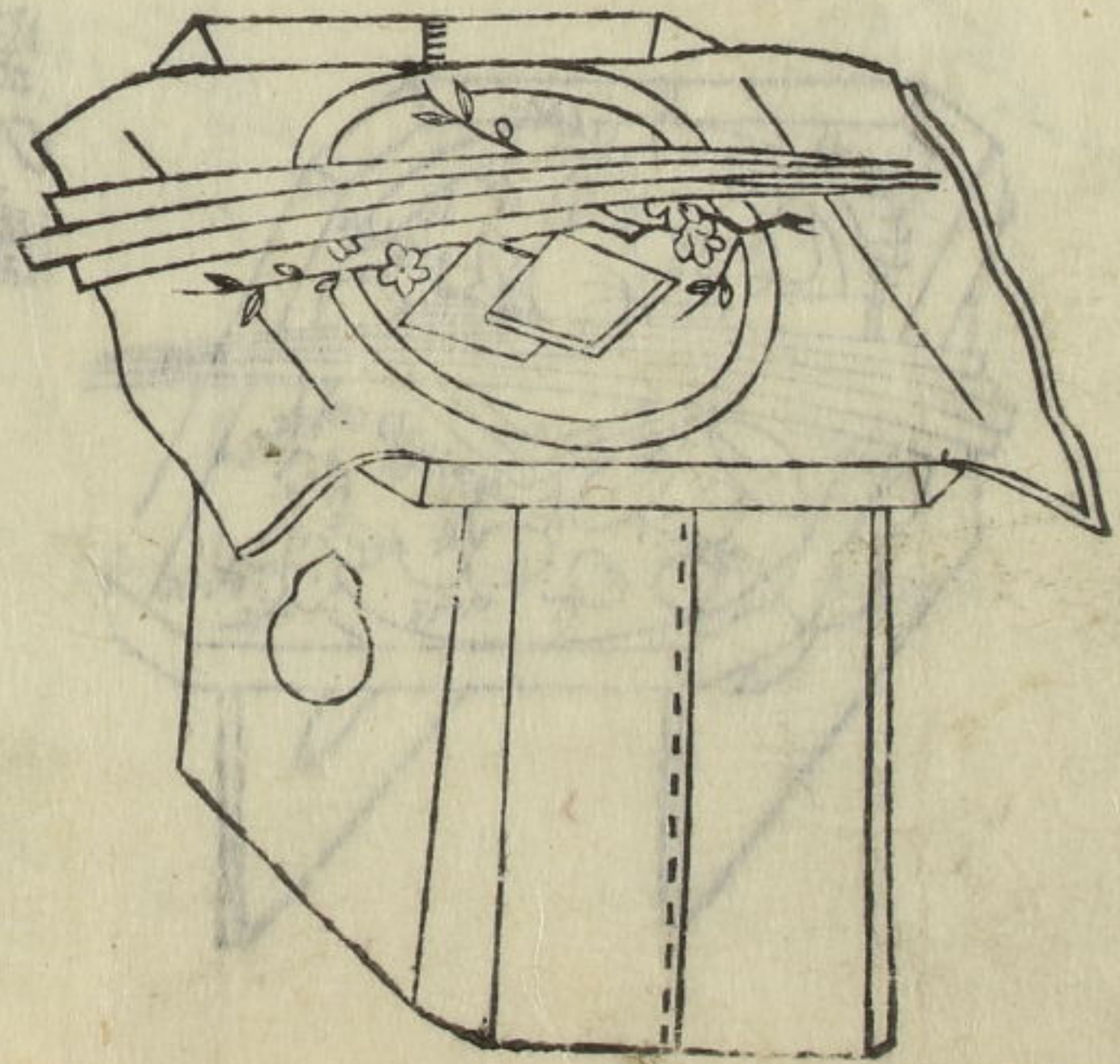
歯堅の圖



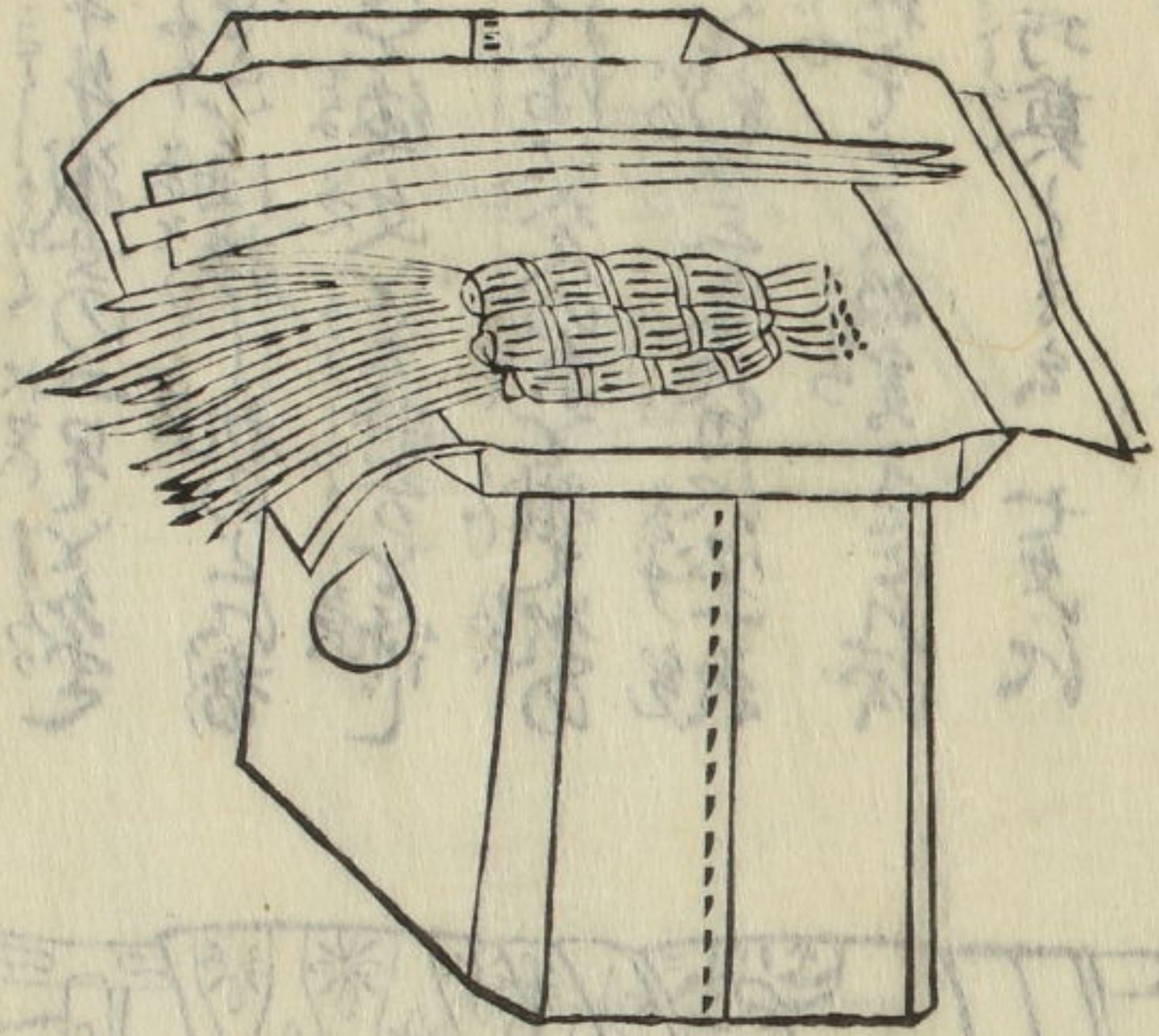
正月七日



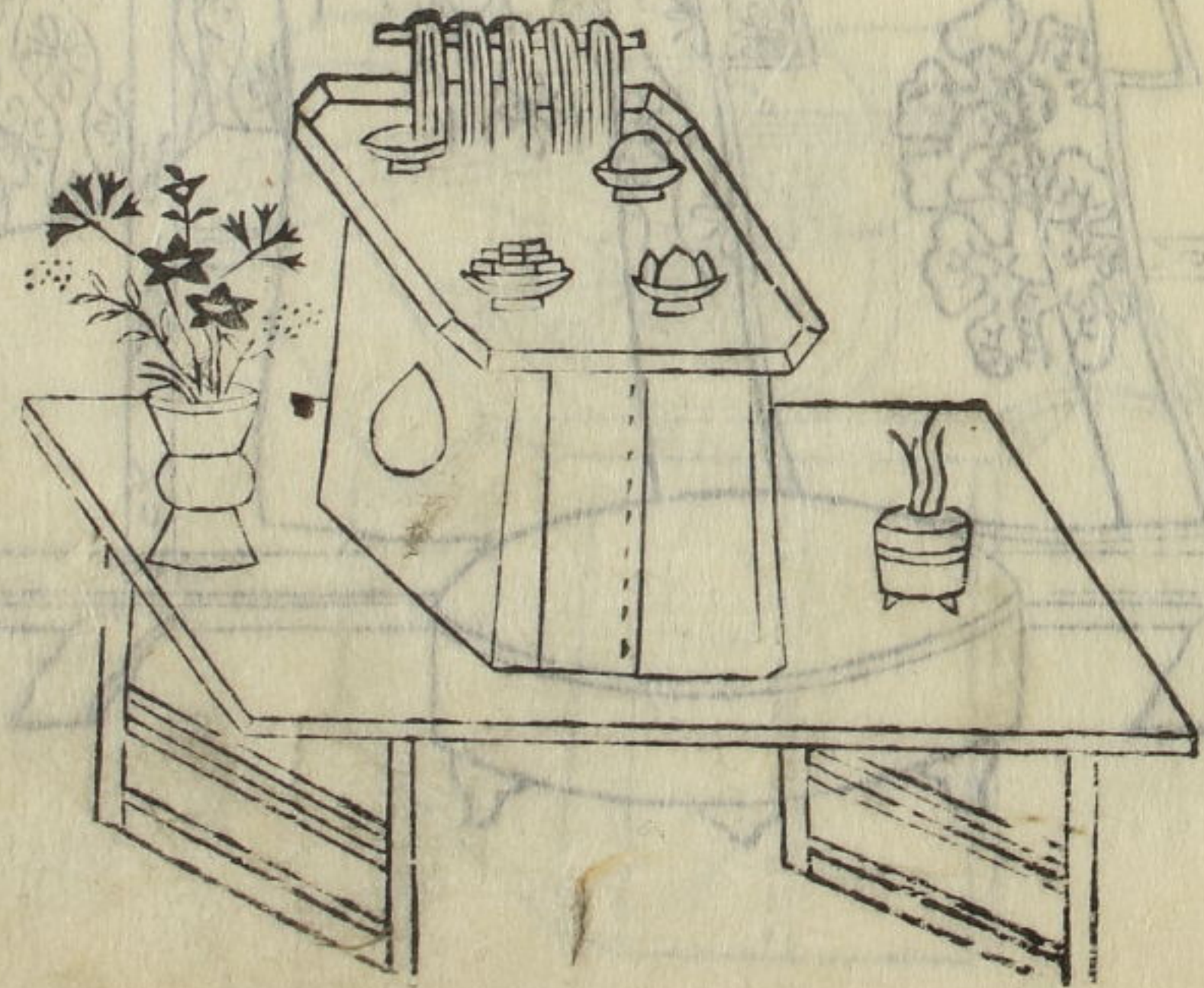
三月三日



五月五日

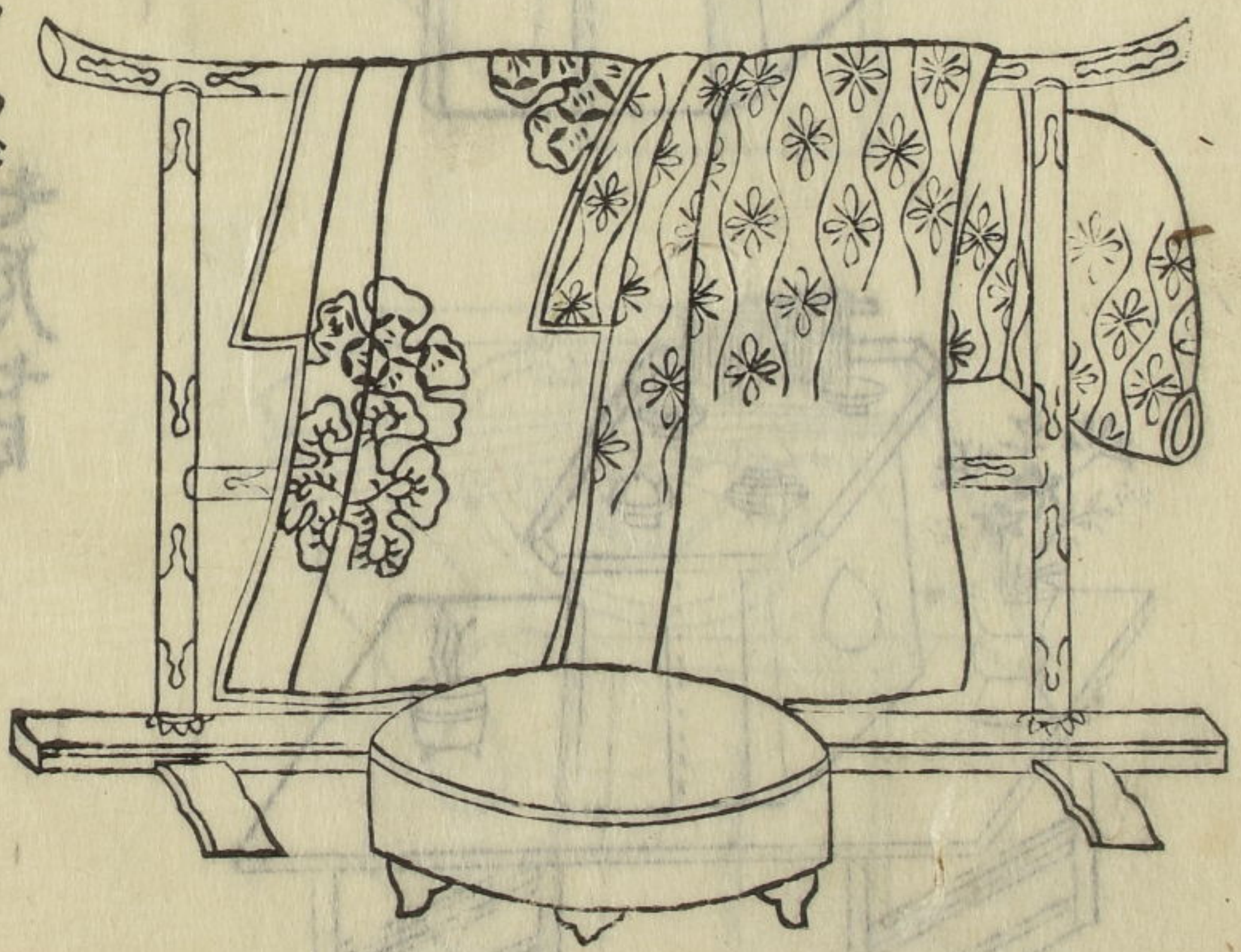


七月七日



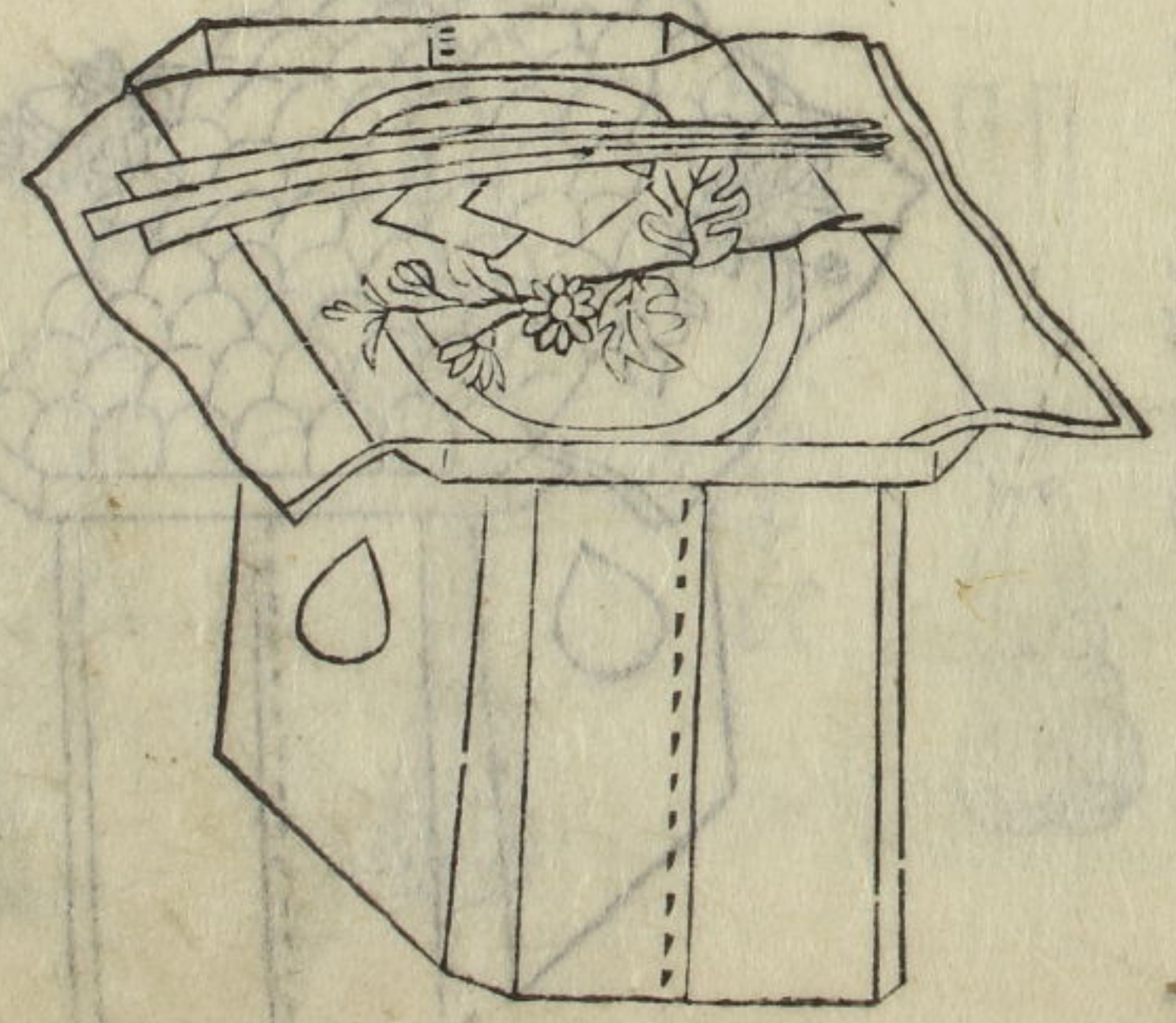
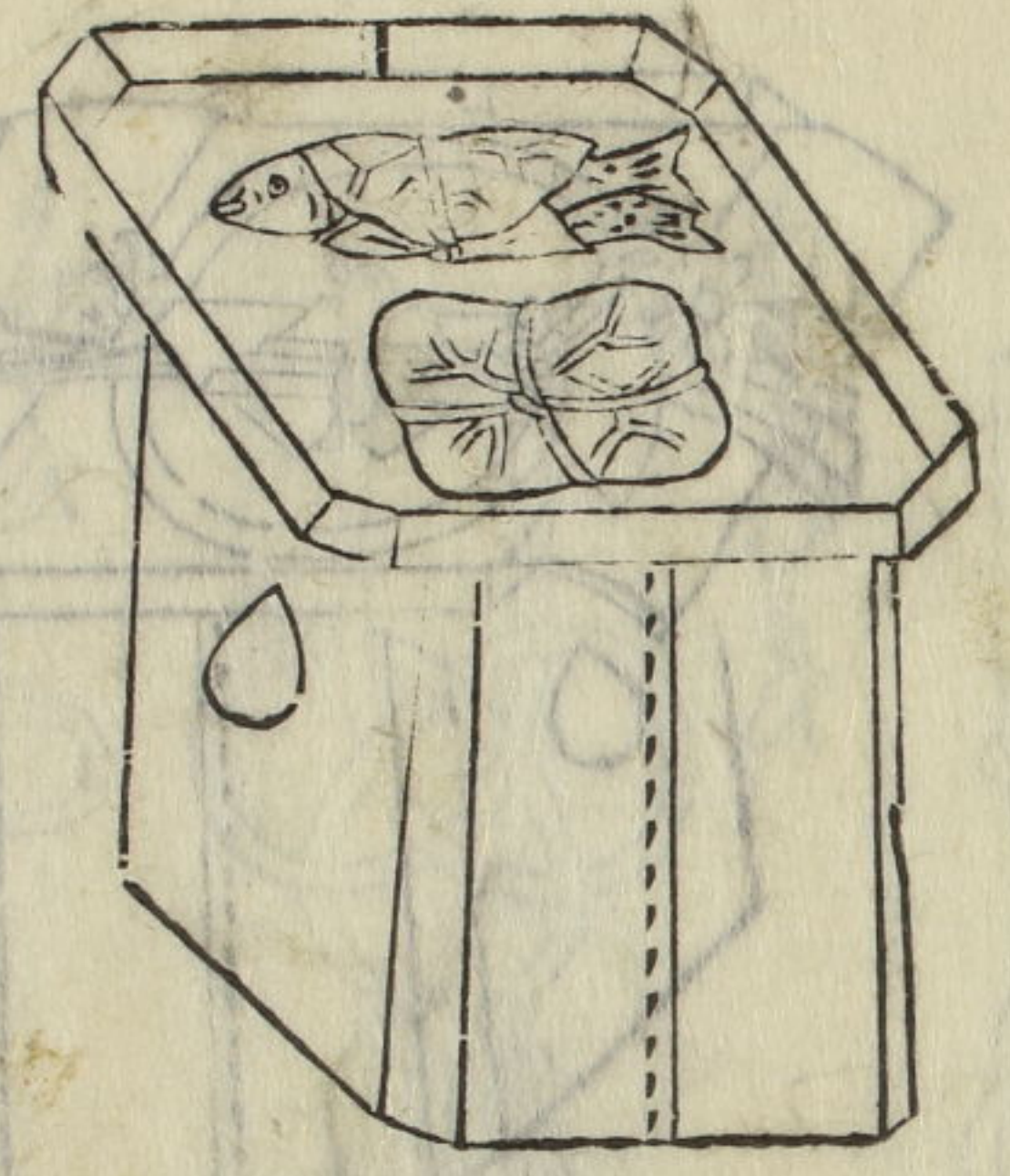
七夕祭

一七夕祭のうら七月七日は  
 牽牛織女の二星と云ふ  
 祭と云ふ酒樽一机の上に書  
 花と徳文と云詩をよみ  
 竿に端に女の糸を掛て乾の  
 ると約する身代に必一紙  
 納せんと云故書と云  
 乞巧奠とも云 七夕に  
 長とくすまぐさひくあり  
 けさの七夕はたま詩を  
 結一七の女をひくまのれハと云はせ



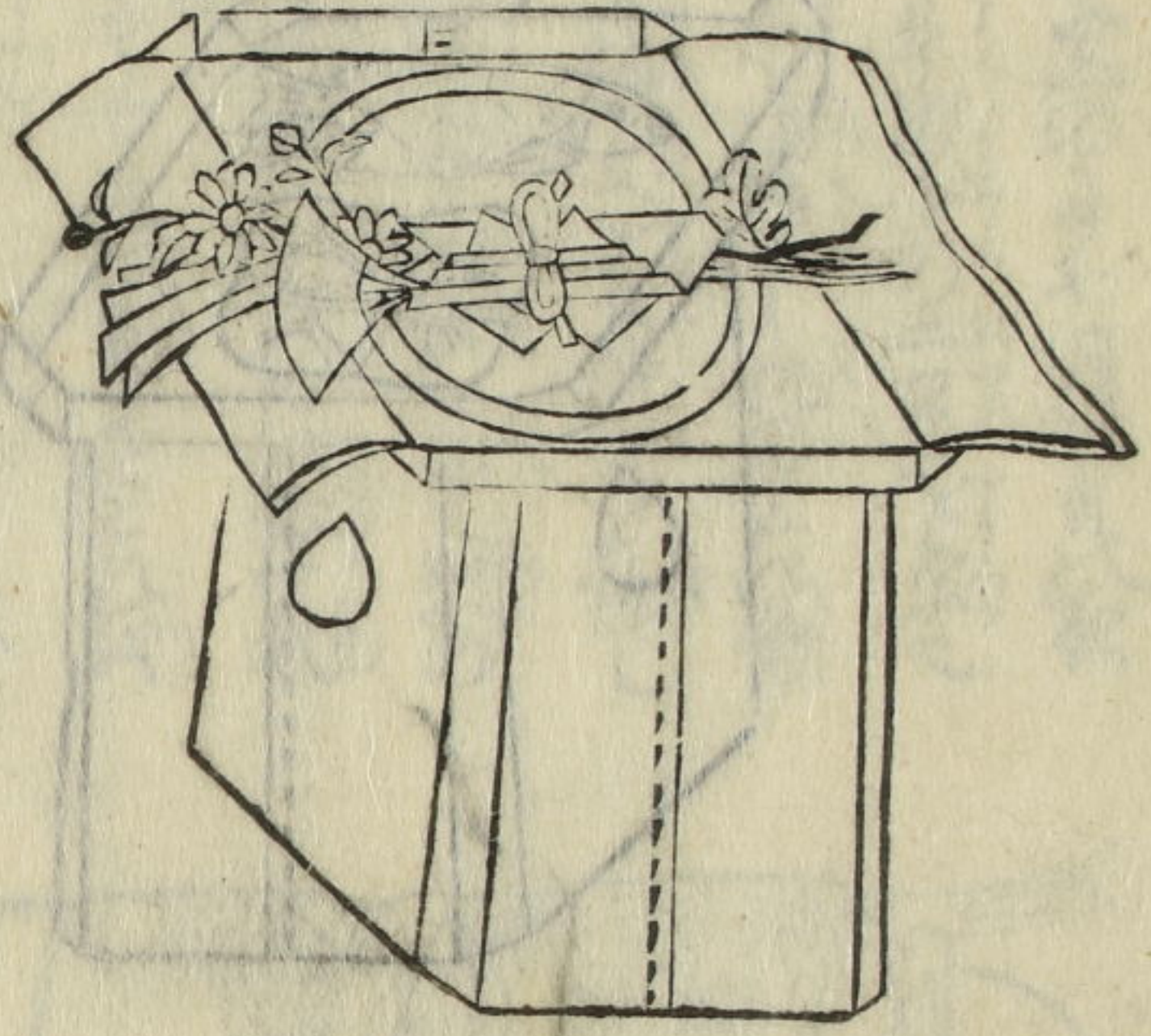
七月十八日

九月九日

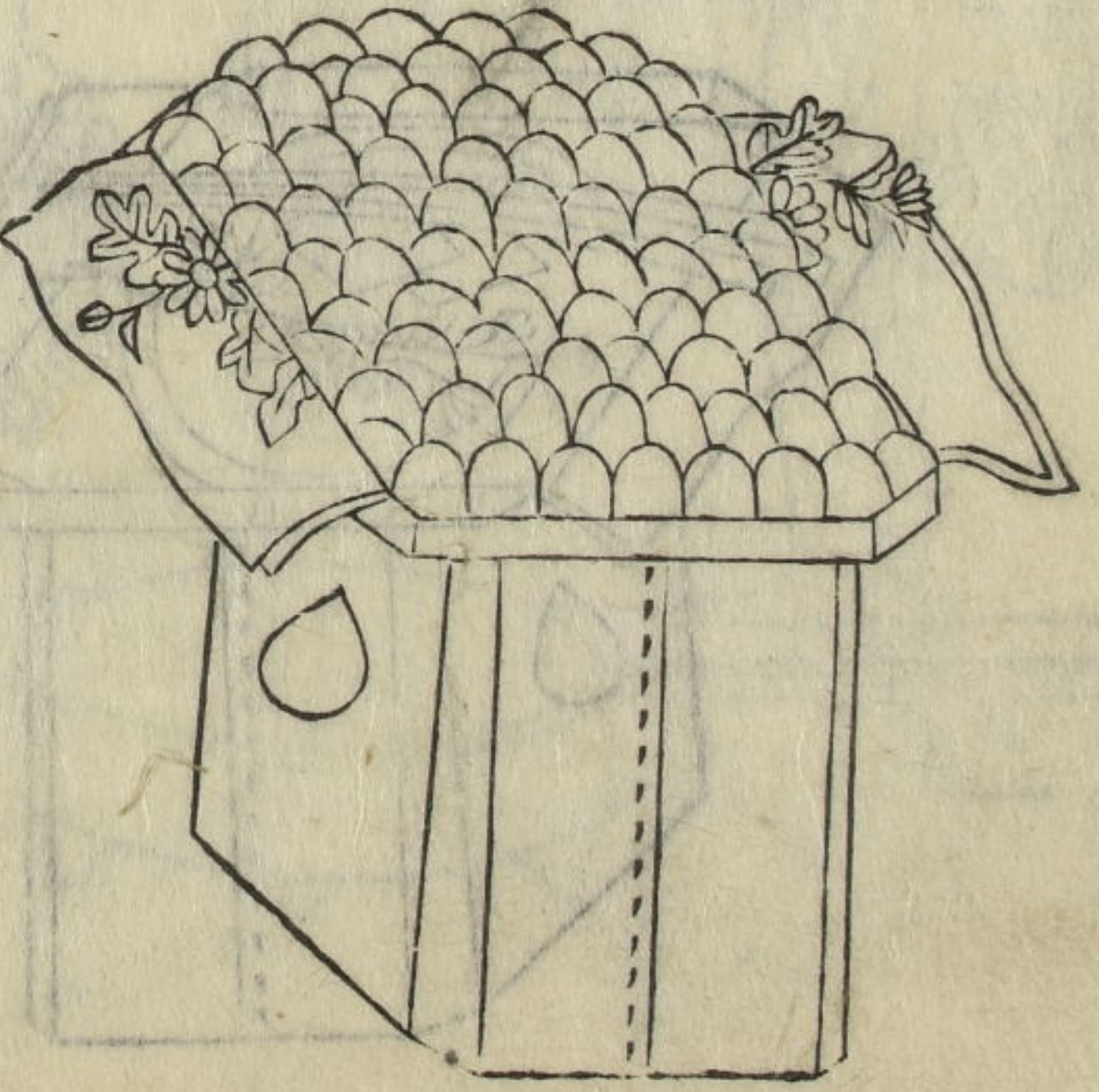




かしのあし  
あし解ら



同敷の解



五筋の解  
五筋の解は、あし解りのくちかへらまゝのあし解り  
は、あし解りのくちかへらまゝのあし解り

あし解り  
あし解り

あし解り  
あし解り

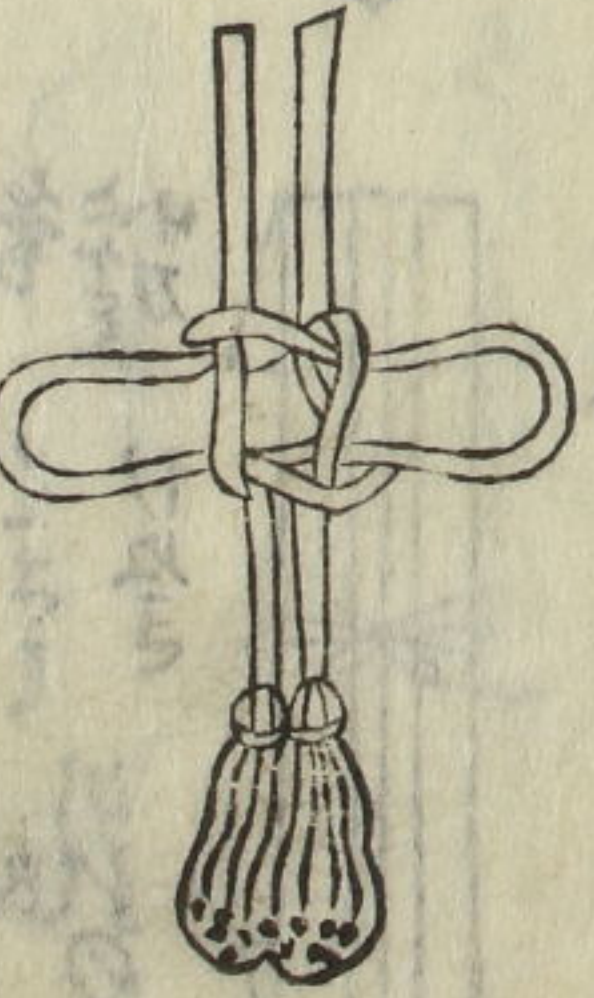


あし解り  
あし解り

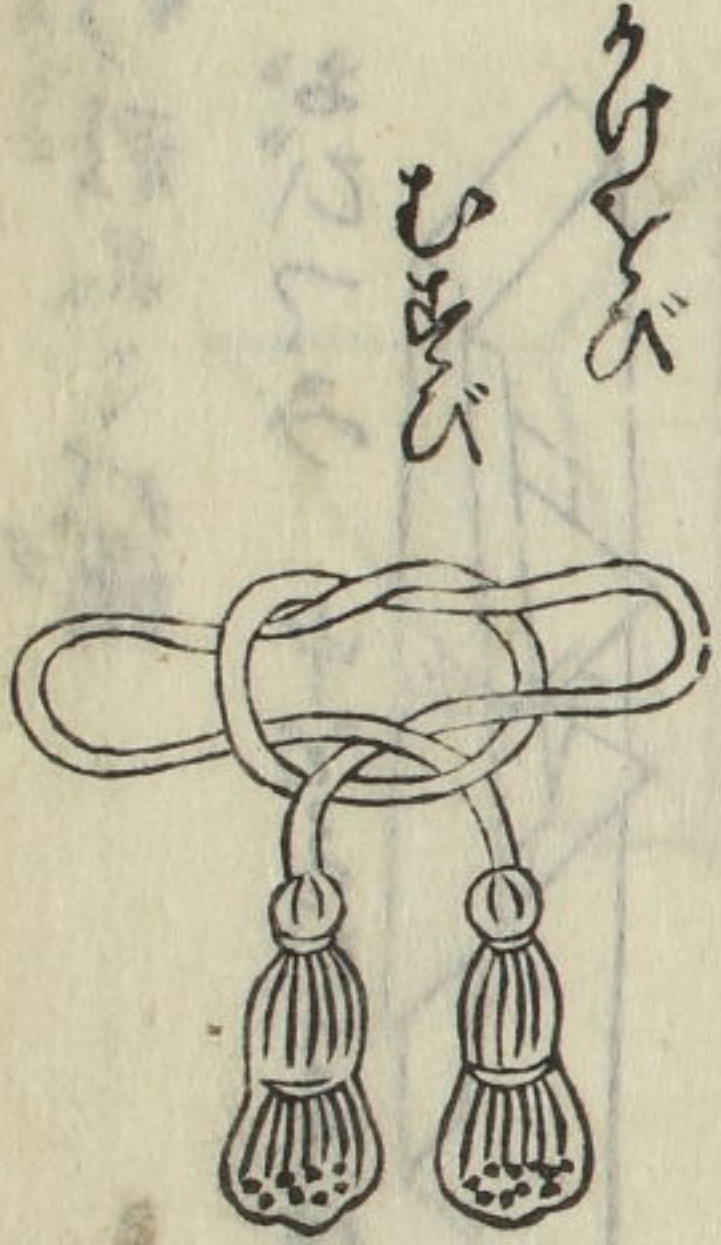


あし解り  
あし解り

あし解り  
あし解り

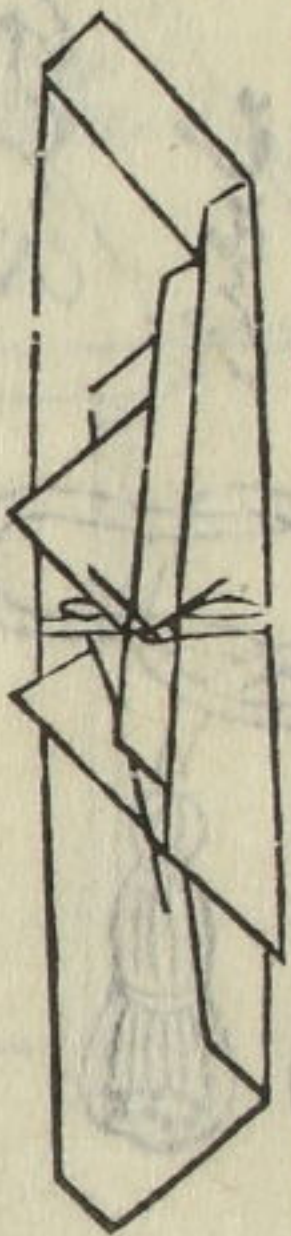


あし解り  
あし解り



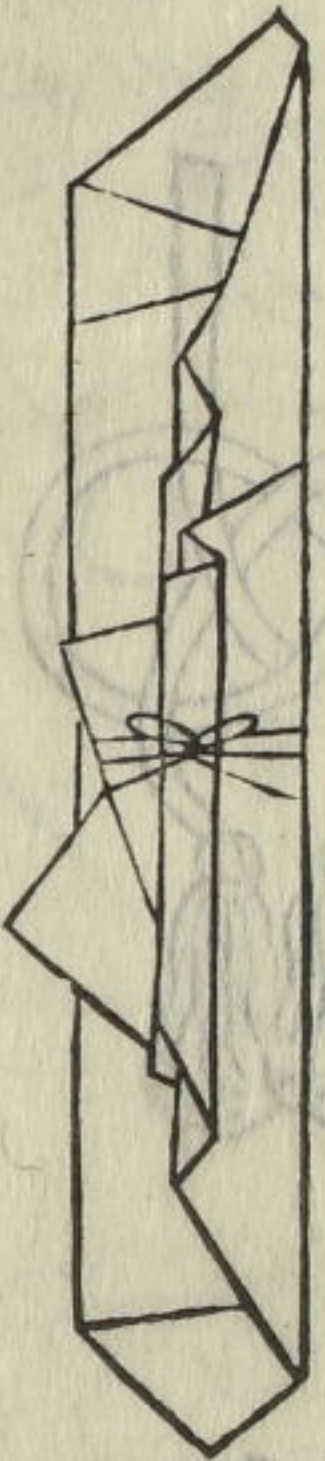
あし解り  
あし解り

おびつみ 中とまりを倍入

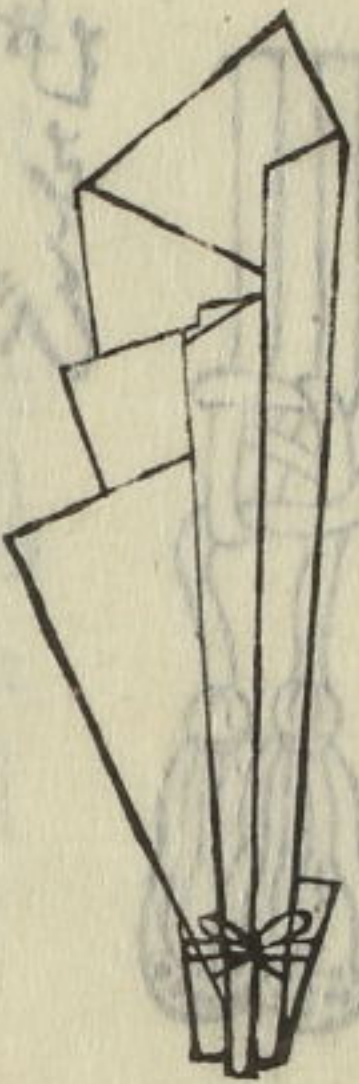


おびつみ 中とまりを倍入

のほろみ日



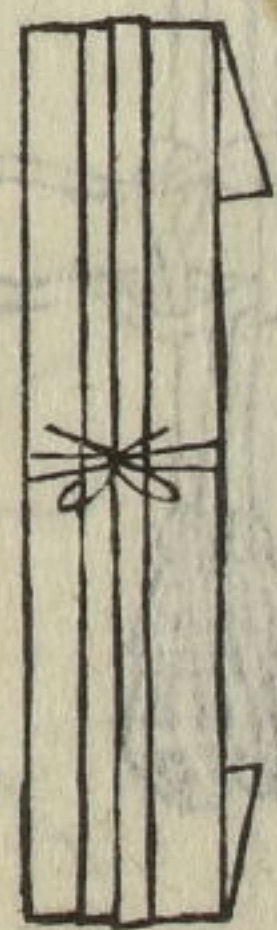
美木 葉つぎりをもり引え



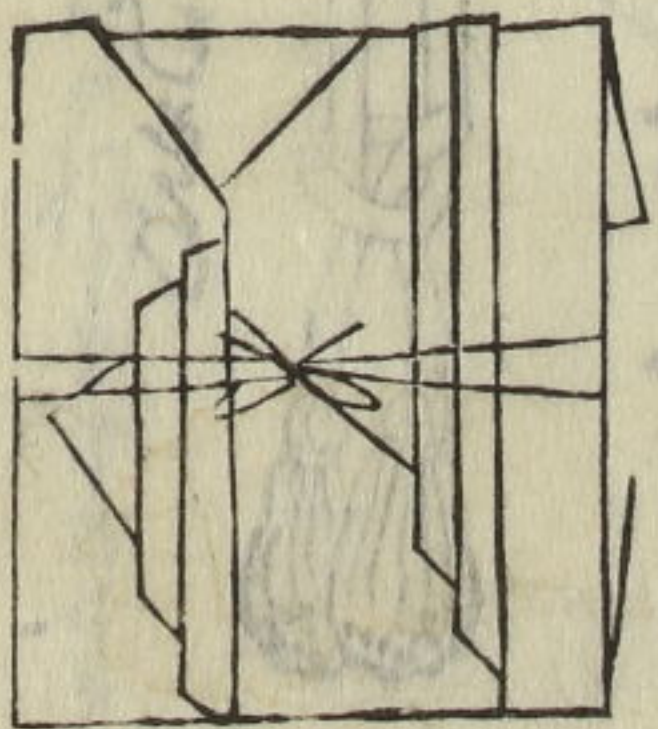
おびつみ日



おびつみ 葉つぎりをもり引え



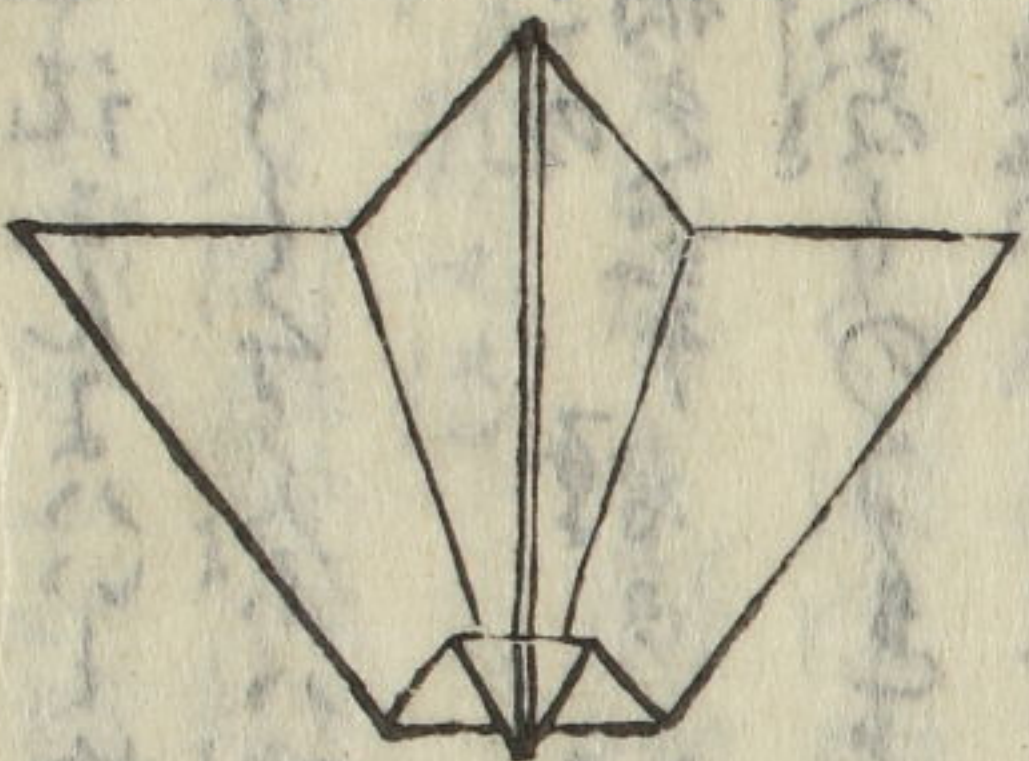
おびつみ



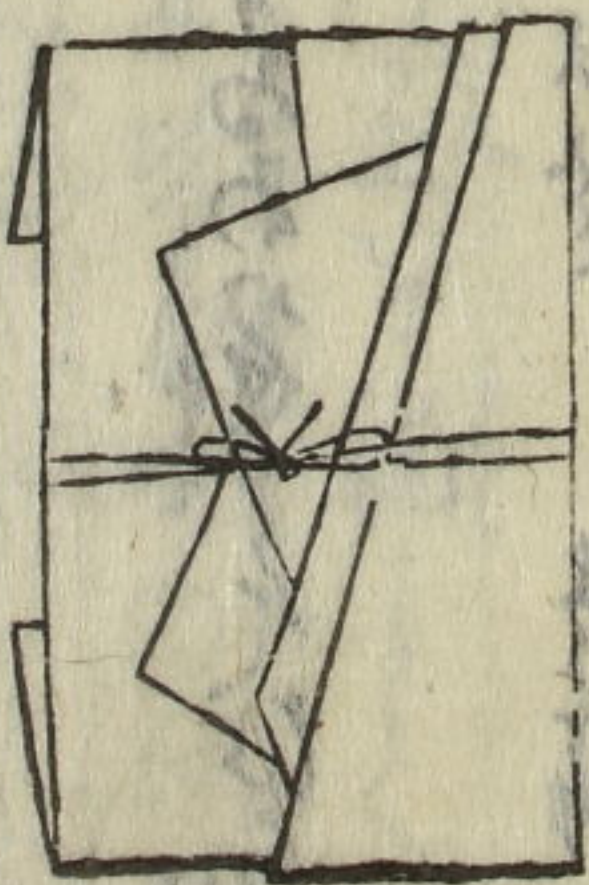
おびつみ



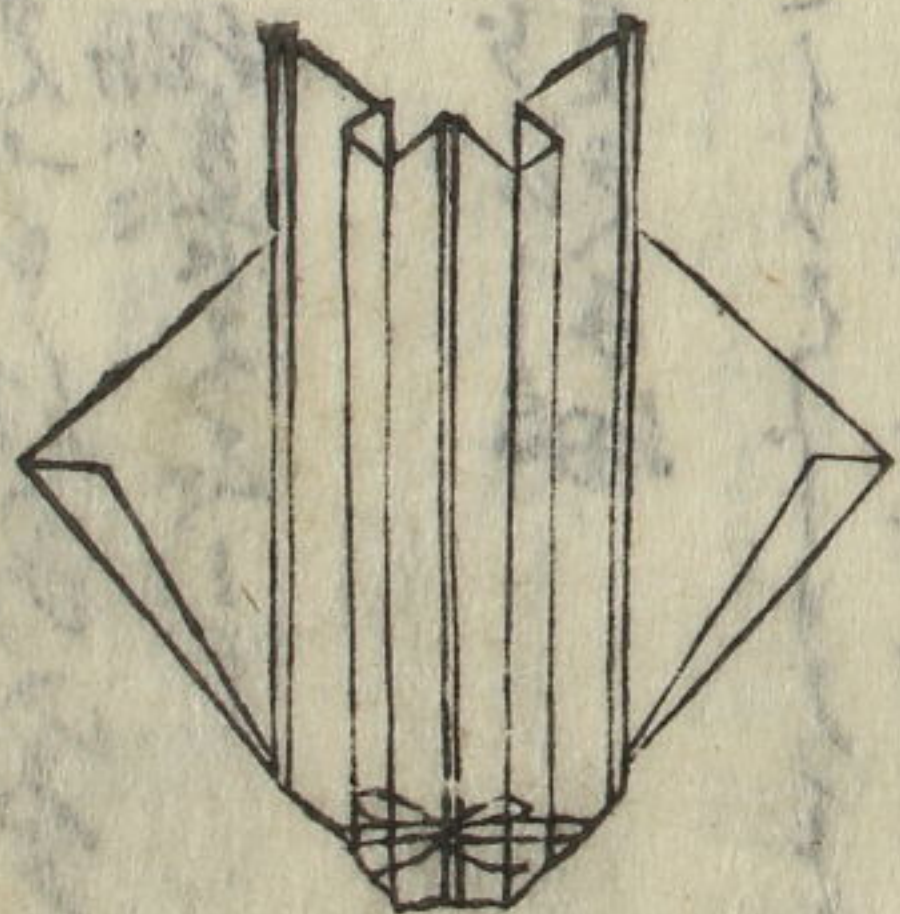
おびつみ



おびつみ



おびつみ



一 儀形抄のふみ十石にわらねども券に入らざるの多うず  
とくく記さんよはいとゆわすト共見せられりの入るにのみ  
一二とわらねども余ハ卯辰戌とくねまらるるべし

貝箱之事 樽り 命也貝容自之子細

貝合ハ久妻りのうもていづものせりらトヤととまを  
あらず五葉 源氏地がらるるどよハんては後を羽後守  
あゆのふに

今ぞこの浦のともぐらとるわらせとてひらりの  
貝合の貝ハ耳白と目づれかり

五葉 南時貝桶とまわやまらる貝おかり冠桶と箱とわ  
やまらるるがとく

一 儀とハ船甲八角一圓より式法ハ船甲なる八角ハ中器  
より一巻又下男なり

一 船甲ハ船ハ万葉の壽延をり是と祝しくかりは  
を被その外祝言れ州の一巻本皆船甲の白紋より又  
幸疾藜とくも船甲なり又妻愛をりも

一 式ハ船の外とるご時給壽延非松根笹内とよ  
とくささく張心常たねびよは外利事地村砂粉より  
略法ハくらくく微粉あらしハ合紙の紙とて張と付ハ

一 五葉八角ハ周易八卦乾兌離震巽坎艮坤父母長男長  
女中男中女少男少女是なり

一 圓ハまらるるなり天比ハ船卵のぶくととり船卵

とまらふにたりとこれかきとちうくみく然くうぐ  
くやとんととの祝半く

一 貝桶をり次の間にくとりはかへ出さず

一 緒ハ小児びとびより家貝おとち貝名と同一小児結  
るまじもえちりちるやうのじすむあり

一 先貝ははぐらにハ毛種とあり

一 家貝箱ハたはぐらにち貝名ハたはぐら一ちと云ハた  
るりちと云ハたより貝つくとれ印と云とありて云ハた

一 一葉出と云ハたよりてまのり地と云ハたよりてまのり  
りハち貝よりひられよにもろろが貝なり

一 一葉出と云ハたよりてまのり地と云ハたよりてまのり  
地にまゆと實はれど一と云ゆんより板はれ  
が地と云とくべ一

一 貝の内と合粉よりて原氏の絵と持来久よ云ははあり

一 一葉出と云ハたよりてまのり地と云ハたよりてまのり

一 一葉出と云ハたよりてまのり地と云ハたよりてまのり

一 一葉出と云ハたよりてまのり地と云ハたよりてまのり

一 傳

一 先比と云とては出と云とて一と云人のちと云

一 一葉出と云とては出と云とて一と云人のちと云

一 一葉出と云とては出と云とて一と云人のちと云

一 一葉出と云とては出と云とて一と云人のちと云

一 一葉出と云とては出と云とて一と云人のちと云

一 一葉出と云とては出と云とて一と云人のちと云

一 一葉出と云とては出と云とて一と云人のちと云

ひるめの命をくさるゝんつげ終りて貝ありせいでいりて  
おしとらつちとどろものなればゆと出り終  
ちすともおりにゆびさし終りてさり終り終  
りてせてあもせたまふべしむうぬれ地とこ  
づととらんとし終りくもろひららつぎあ  
つれはとららうのようぬれとちるべしおりに  
ゆととのようぬれちるべし姫君のゆいづらいでぬれ  
いハ貝ありせらるゝねともおのまぬおもさつらぐ  
とへればばんがわぶしこくにくりす

一 屋敷侍見はよとが一時とくづしてもあざれあつひ会  
奪合が姫君とらへ乃礼着るりもせぬとづこハ貝とて  
腰みゆりゆりおりにゆららつぎよはせしと

一 よつこのまふもむらたらさず似しそれともほ  
とく乃形ありべしんゆねおりのうをさしとど  
ともおねびしとらなるハ姫君とくつやれも  
おへゆらとらぬりぬらりなまけわりんまもやう  
おしくしんとしべし右利ハお貝のまもひも  
さどくべしつとせんととおりの終り終り  
一 貝あつちやハ所もよく合はらうのたり実くあり貝  
とらてあり貝れお流たをりには  
一 貝よりやうおね右へおと左へ貝のまぬれおへ  
もあじらぬしゆらぬもゆかへならやうよりして  
まあからけりかぬれまけぬにぬれあつら  
ははあり

一 貝のまじり貝より仕立としてまの方へもうくま  
てくづきぬやうに糸よ入べりあり貝を人こ貝を人  
侍見せりしそ入をへ入りハ丸くも丸くもまがり  
ゆるなりにはいぬぬぬぬに中ぎに幸螺すもの  
に入べりちりけり

一 貝のまじり貝より仕立としてまの方へもうくま  
てくづきぬやうに糸よ入べりあり貝を人こ貝を人  
侍見せりしそ入をへ入りハ丸くも丸くもまがり  
ゆるなりにはいぬぬぬぬに中ぎに幸螺すもの  
に入べりちりけり

一 貝のまじり貝より仕立としてまの方へもうくま  
てくづきぬやうに糸よ入べりあり貝を人こ貝を人  
侍見せりしそ入をへ入りハ丸くも丸くもまがり  
ゆるなりにはいぬぬぬぬに中ぎに幸螺すもの  
に入べりちりけり

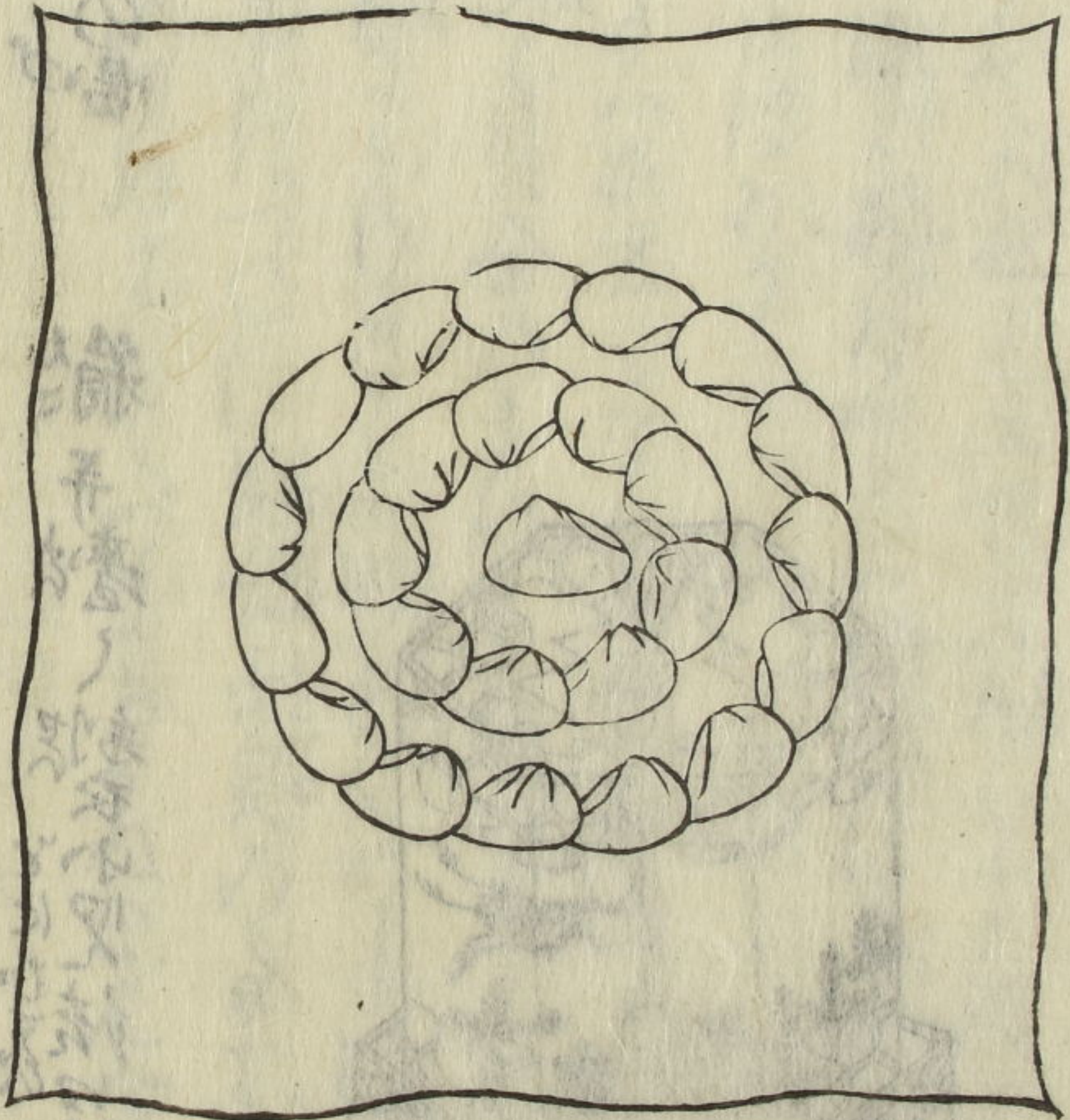


貝箱の品

箱并巻く刺衣小兒結は侍

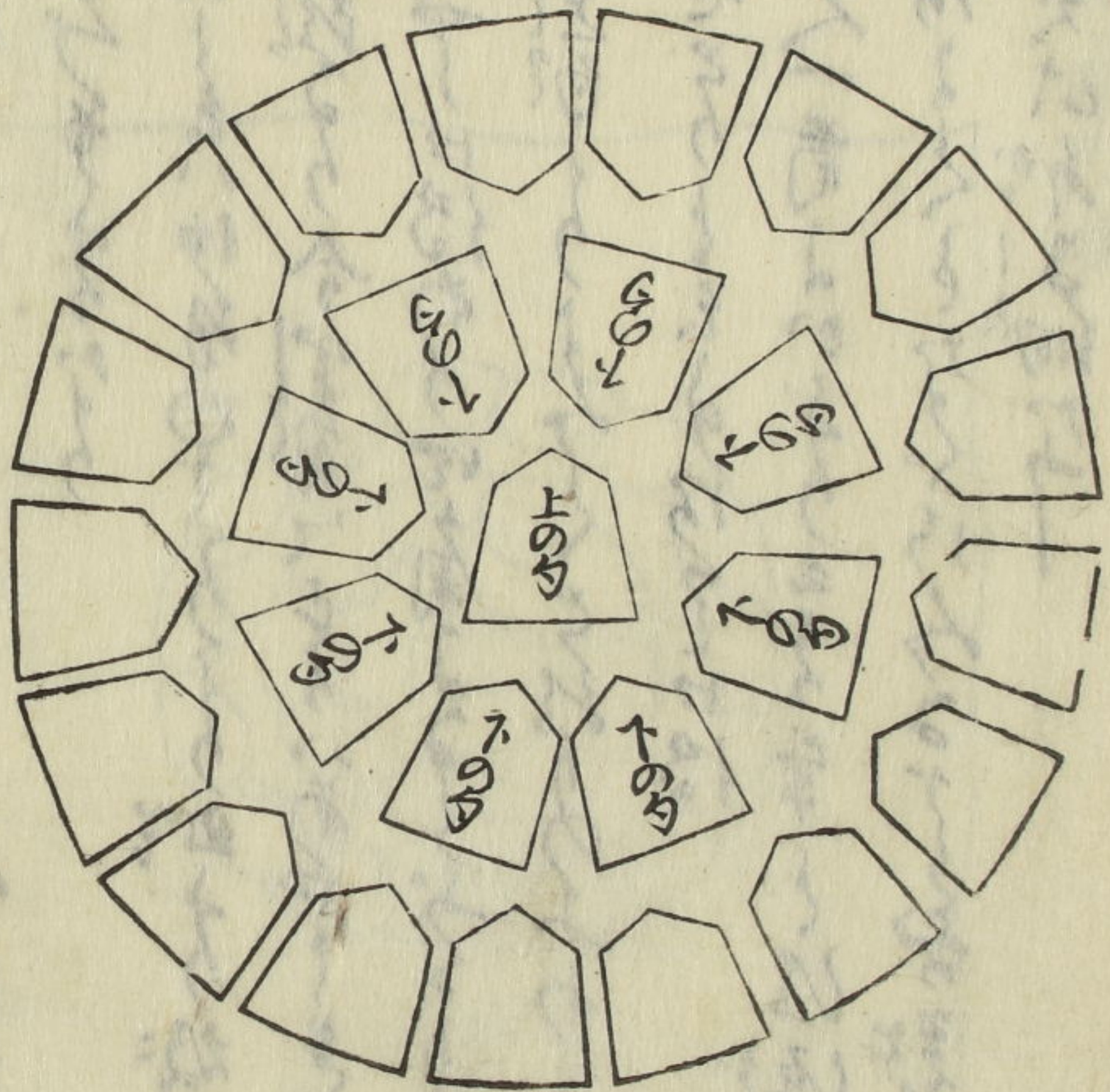


貝合之語



貝の事

- 一 俗に膏牌と云ふありやまもり貝合に似たり
- 一 貝とはさづきなり
- 一 名進まるといふは伊勢也なり
- 一 式法に基きたり今則ちこれと云ふあり
- 一 五葉はぐさの傳わりは
- 一 日なりと云ふなり
- 一 日ありと云ふなり
- 一 當時百人一首よかざり
- 一 わかたりあり
- 一 貝合の事
- 一 貝合の事



繪貝并 文まれば更

- 一 五素繪貝文字れは我代のりあるり 繪貝ハ方貝のり  
に一一名所の信とれて付合と云のり合せとて
- 一 日外まればは書又或は名所又所乃名平生れ文字  
奥多の何しとてまよと二字三字とてくこまては  
出地とてまよとてくこまてとて又まては  
人一一とてまよとてくこまてとてまては  
日又まれば出地とてくこまてとて熱字或は付合とてくこまて  
方貝のりとてくこまてとてまては  
日まてはとてくこまてとてくこまてとてまては  
凡繪貝の繪の形をまてはとてくこまてとて知男幼女  
にいつとてくこまてとてくこまてとてくこまてとて



をながらんにせんぐうありはるは 後貝は父を貝よにされば  
後貝とていけり子細は侍す一但し父をこれに長みす  
ちて式可わつさ二かづりの板よくは立らるるがよれく  
らふのさしあがり

繪貝 年ふまれの書



あいの書



うみの池

秋風起

白雲飛

女子のあそびはけお歌らうり文章とさうらひを  
けり虫消花びとびさどけきとひありしらぶも  
しるさゆらうりを記よとさぶず

指籠香の事

香式

一先香煙ふんばあつちなりのいよしうりこま真約の  
長よりり或の時意にまらるる細念の香の香とせん  
とすすやと見すぐられた一燈の人よふば一  
て香のきまら七種匂ひの又味よむも毎ども細念の  
はけららるる一先匂ひ散りまらるるに申さるるに  
各所散りあつちなりのあつちなりのあつちなりのあつちなりの

うに濃くし一親香の増減乃白ひかふる也されば  
 んどめ火を点れ白ひとく吟味もふ一家の香た  
 らとくひゆ大旗なり凡焼但の連歌乃御合のど  
 かりおれくの記録よりわくかりふ一母乃香を  
 りせとく相次ぐ縁は海をともく絶一春のり  
 葉其の交野のれはるさ枝ハ八氣の匂の葉又ハ初  
 野をいふかしく大旗このり縁ハ熱れ香にほれ  
 うぶおれと文書なるもゆふはま敷行も多  
 こすたはども一柱二柱宛と縁ハ乃らに志か  
 何も縁はとく合をきく是はゆぢにひりか  
 香は乃わつらとて此よりさる縁ハ乃め  
 うどくは香をよもりハ香ハ縁と不

こもゆとて縁ハ但縁とくたう色ハ  
 子細ハ縁乃具ハ縁と合さるり  
 少物合香はきくも  
 六十一柱の香とわらせく不可  
 うとく十柱香小細合は  
 入ハ新伽羅羅國其那雲其那質とく  
 香ハ興とくさ中ハ開とく  
 香のあつりハ人の香  
 香乃作ヤハ木西に  
 志野柳ハなれがざり  
 五合著原 日合著原  
 十柱香七ツのはな

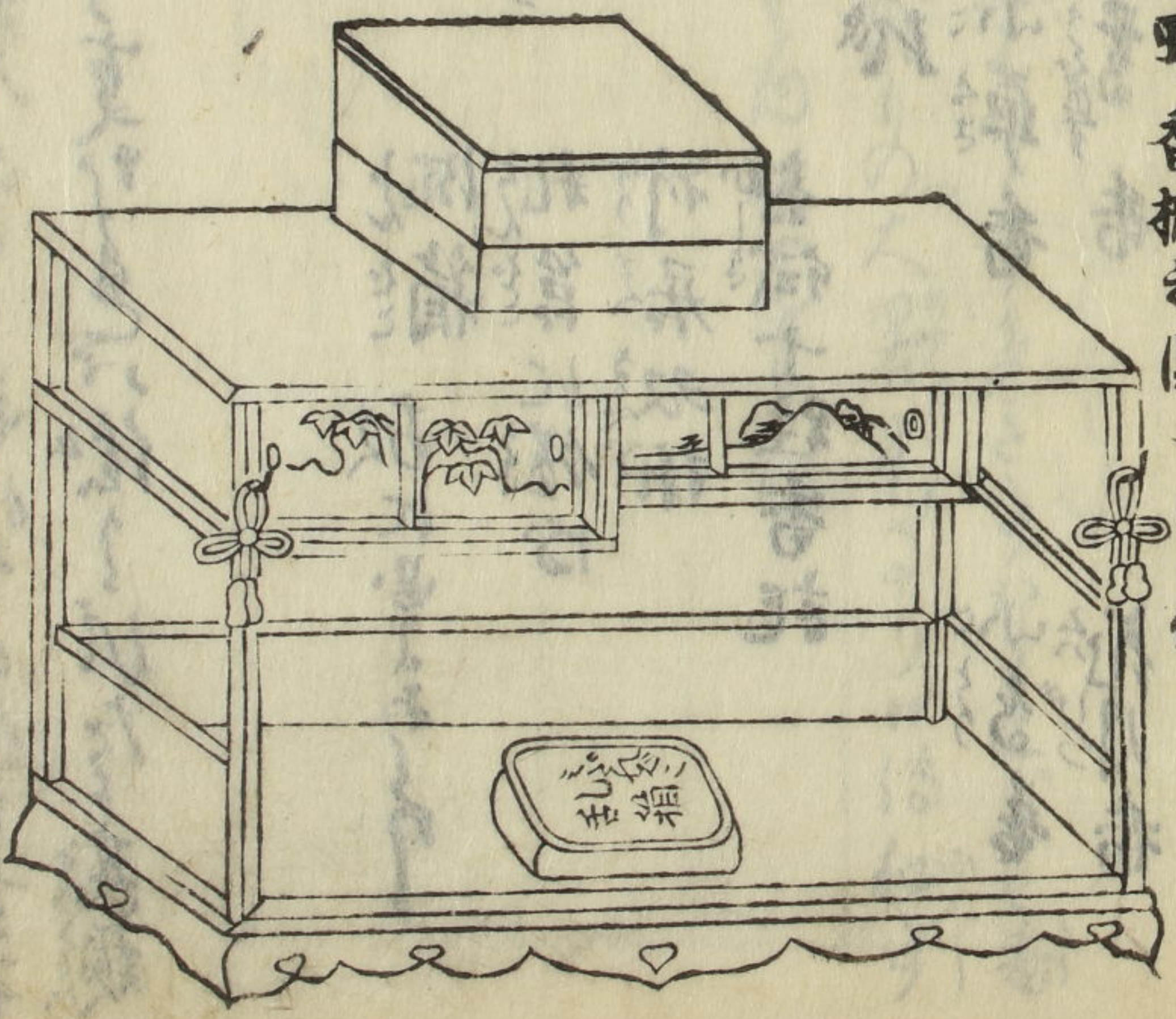
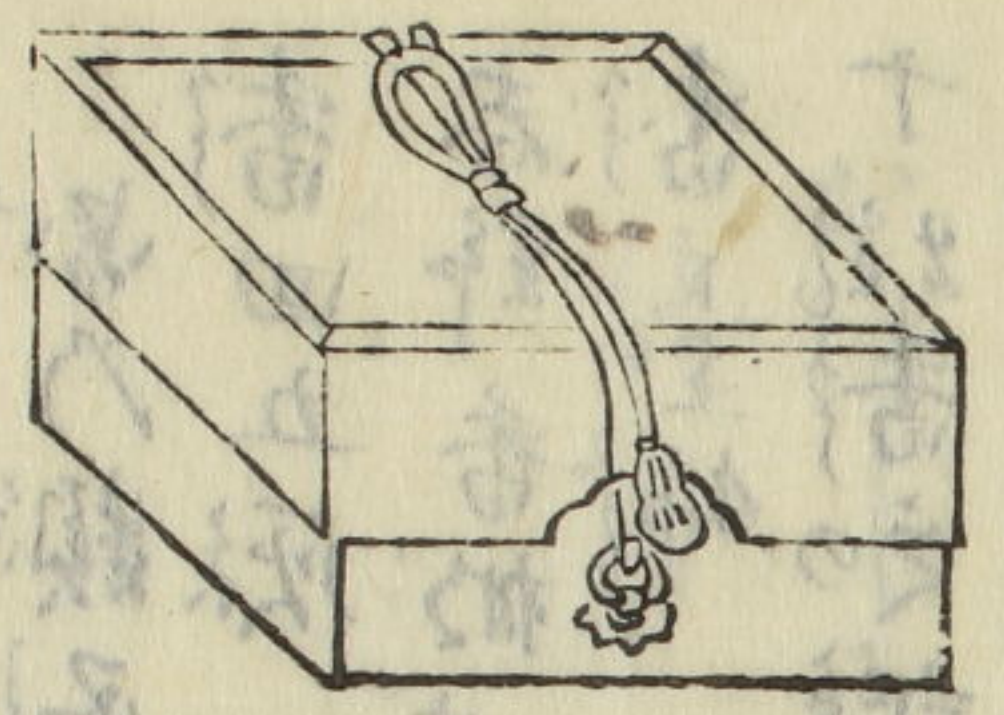
香炉一乃香炉  
 折居連中札入  
 貴人香爐まりりや  
 香れ十枚 香三枚  
 無掛了 焼返し  
 記録紙ふと出す  
 初らまはすべと名乗る  
 云試十柱香にケ際  
 右のどくおはははらうととどくもよのめ  
 花の色を人毎にぬるにあらうととどく  
 こまらまはらうととどくもよのめ  
 じらかり桃心あらん人へととどくもよのめ

瓶の蓋  
 下に字の取とて付  
 遊加

あし

香野香棚之園  
 寸法は倍

沈箱の蓋  
 寸法は倍



十炷香初返のりやふ乃おとし湯れきぐひも十二  
 一のあすすうひあすまがも色バ信うばた其類  
 とあもくいん

湯乃類

香四五灰

志野香柳 木にまりり

香直室飾

十炷香之記

十炷香只くあ乃類

宇治山香

郭云香

香茶二人

沈箱

私管に儀内

折居双楹

御試十炷香記

小单香

号香

右今者

小多香

花月香

伊呂香

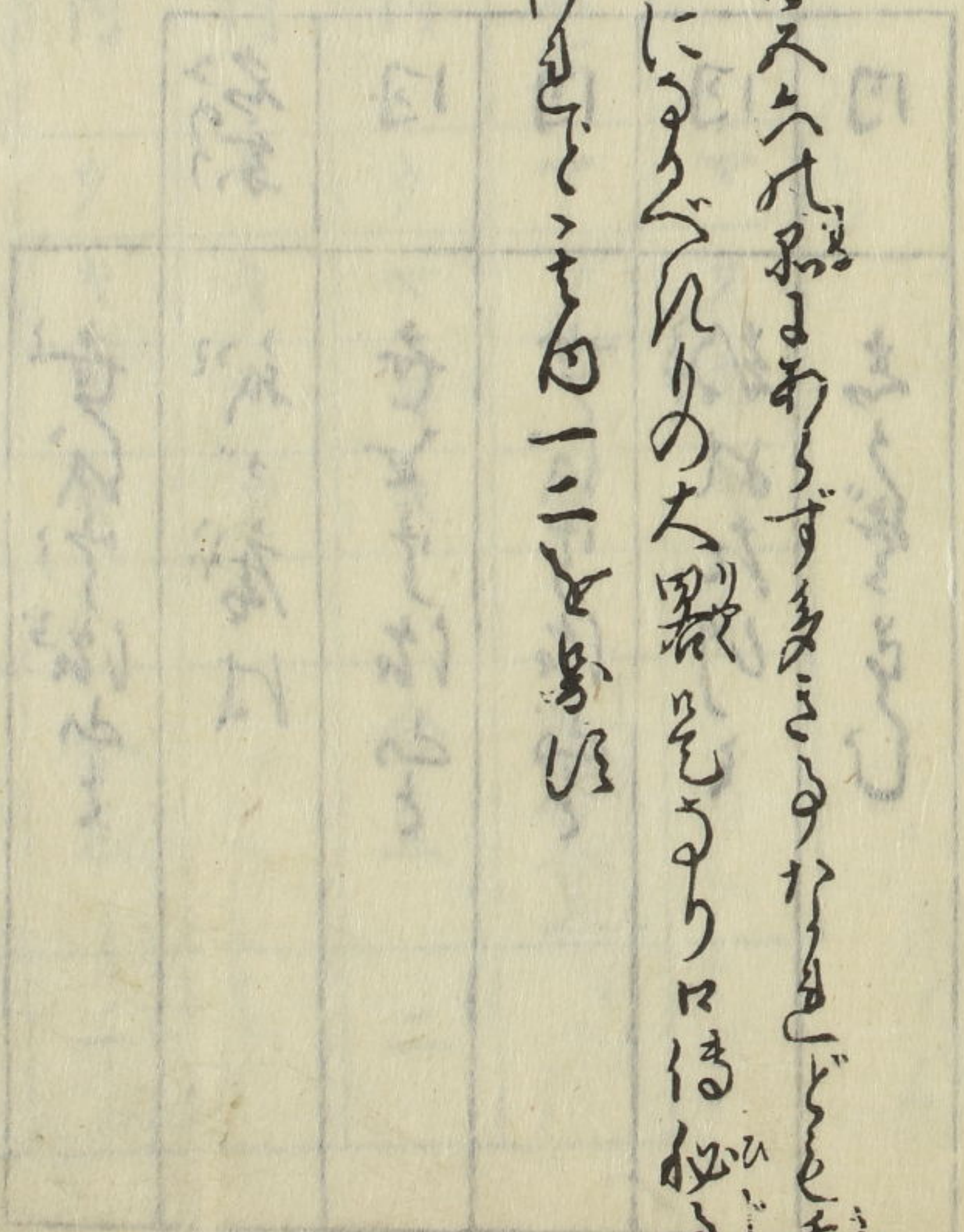
人形香

系圖香

新月香

源氏香

は外二三四五六七八九あはれず多さるなりと香  
 の糸袋あにさるるのた器はさり口は秘す  
 お月一はとてま白一二とあは



了法山番の音

月	月	月	月	名系	
					おんがはつ
					おんがはつ
					おんがはつ
					おんがはつ
					おんがはつ
					おんがはつ

小單番之書

月	月	月	月	名系	
ヤ	ウ	キ	ウ	ヤ	マ
ウ	キ	キ	マ	ウ	ウ
キ	キ	マ	キ	キ	キ
キ	マ	ウ	キ	キ	キ
悉皆合	合点		合点	悉皆合	
	一		二		

かくろいれぬのさきど中く経とらんともあつて  
あつりうらさ志のくはくく昨にわん一

宇治山番さしひ

六粒と二包

十包

六粒乃試

言れ銘

名系紙さきりりりりり

小葉番なすしひ

五文字

四文字

三文字

丸

丸く

丸く

一乃短

短の短なすりりりりり

小葉番さしひ

一乃りス書

つら

かつらぬ

多名乃とれくおどくさりりり

郭の香あしひ

香本一添す

潔く

名系

我香さきりりりりりりり

鶯香なすしひ

札一十枚

表の巻

裏の巻

松

竹

梅

香

香口柱

試の短

記保入腹さきりりりりりりり

花月香さしひ

六粒

十二包

花

月

札遊加スナ際

さきりりりりりりり

古今香なすしひ

香

水

表

香花表の名書

十人

香二燈の一燈

とるの香

香本焼出

札入指六ヶ條

なぞいふあり

香ありひ

表の文字

燈の内一物

札裏の文字

焼出ひきと

札入指六ヶ條

和揚

焼出ひきと

札入指六ヶ條

なぞいふあり

香ありひ

表の文字

香二燈の一

妻の文字

表の文字

香二燈の一

灯楽天焼出

ひき

札入指六ヶ條

なぞいふあり

在十種香名の 品くうり口伝秘事ありよれ師と

りしりくさるべし

それ十種香ありひ口伝秘事ありよれ師と

ひりりさる一香の新古秘とさるよれ師と

焼り比下に知るるのさるさる一我香傳の伝と

さるさるのさるさるのさるさるのさるさる

うちまど秘事ありはははははははははははは

あつすすすすすすすすすすすすすすすすす

焼りさるさるさるさるさるさるさるさる

さるさるさるさるさるさるさるさるさる

事ありのどり地物と知らく大さむ  
登なきと貝合遊春れ後よ志ろしと行田全  
乃ちり道ゆらんを辱んとけふ上揚のりく  
あそびと爰見るらん化しやけりむわの筆も  
はしきくとなつともなめさるんし

あそびと爰見るらん化しやけりむわの筆も  
はしきくとなつともなめさるんし  
あそびと爰見るらん化しやけりむわの筆も  
はしきくとなつともなめさるんし



